

## 論文の内容の要旨

### 論文題名

日本の中小企業勤労者における気分障害と精神疾患の関連に関する自殺関連行動予防の研究

### 掲載雑誌名

昭和大学学士会雑誌 掲載予定

医学研究科内科系精神医学専攻 博士課程 福島 隆聡

### 内容要旨

【背景・目的】近年減少傾向が続く日本の自殺者数は、世界的にはその水準は高い。最近では新型コロナウイルス感染症に関連した自殺も増加している。過労死や労災事案も増加しており、勤労者のメンタルヘルス対策は喫緊の課題である。以前に我々は中小企業勤労者を対象にしたメンタルヘルス活動より得られたデータを用いて、自殺関連行動と関係の強い気分障害をスクリーニングすることは自殺予防に役立つと報告した。さらに、本研究では自殺予防のために気分障害と関係の強い精神疾患をスクリーニングすると、より早期の一次予防となると仮説をたて、これを検証した。

【方法】1,411名の勤労者に実施した精神科健康診断式メンタルヘルス活動の既存データを用いて、うつ病群、気分変調症群、双極性障害群、そしてそのいずれかを含む気分障害群とそれぞれの対照群分け、統計解析を行い、比較検討した。

【結果】全てを含む気分障害群の補正オッズ比はパニック症群 3.2、社交不安症群 2.6、広場恐怖症群 2.1、全般性不安症群 1.8の不安症群、また強迫症群 2.1、神経性大食症群 2.8であった。概ね気分障害は、不安症との有意な関連がみられた。

【考察】不安症の発症は、気分障害を引き起こし、重症化させる可能性がある。本研究において不安症、強迫症、そして摂食障害などのスクリーニングが、勤労者の自殺関連行動を引き起こしうる気分障害の発症抑制に寄与する可能性があることが示唆された。